

# I 研究の概要

## 1 研究のねらい

本市においては、「第3期室蘭市学力向上基本計画」を平成29年3月に策定し、教育委員会、教育研究所、各小・中学校が一体となった取組を推進している。

本研究所においては、「第3期室蘭市学力向上基本計画」で示されている役割に基づき研究主題を設定し、本市の教育課題である「子どもたちの確かな学力」を育む教育研究を推進していくこととした。

## 2 研究主題

### 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた指導の工夫



主題設定の理由

#### (1) 「室蘭市学校教育の重点」から

室蘭市教育委員会が示した令和4年度の「学校教育の重点」は、次の3点である。

- |   |
|---|
| <p><b>重点Ⅰ</b> 室蘭に愛着をもち、未来に挑戦する人を育てる</p> <p><b>重点Ⅱ</b> 小中連携教育を基軸とし、「安全安心」を構築、「生きる力」を育む、子どもが「真ん中」の学校づくり</p> <p><b>重点Ⅲ</b> 「確かな学力」「自己有用感」を育成</p> |
|---|

このうち、「重点Ⅲ」を本研究所の研究課題と結びつけ、その課題解決に資する教育研究を推進した。

#### (2) 本市の子どもたちの実態と課題（全国学力・学習状況調査、標準学力検査の結果）から

全国諸調査で明らかになった本市の子どもたちの実態と課題（下記参照）を踏まえ、これらの課題解決に資する教育研究を推進した。

#### 【児童の学力課題】



##### <国語>

- 文の構成の工夫や効果を捉え、適切な内容を取り上げて書くこと。
- 目的に応じて必要な情報を的確に捉え、自分の考えを明確にしながら読むこと。

##### <算数>

- 数量の関係を正しく理解し、発展的に考察し、数学的に表現すること。
- 示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈すること。
- 資料の特徴を複数の観点で捉えて、正しく情報を読み取ること。
- 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連づけて論理的に考察し、判断の理由を説明すること。

## 【生徒の学力課題】

### <国語>

- 漢字を正しく書くこと。
- 文の成分の順序や照応に注意して書くこと。
- 目的に応じて話の構成を工夫し、聞き手の反応を踏まえながら話すこと。

### <数学>

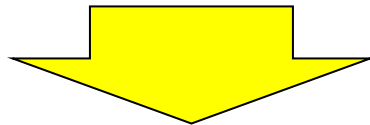
- 情報を整理分析し、事象の起こりうる確率を求めること。
- 筋道を立てて考え、証明すること。
- 事象が成り立つ場合を、根拠を明確にして説明すること。



## 【児童生徒の学習・生活習慣の実態（課題面）】

### <全国平均と比べて>

- 日常の読書習慣が身に付いている児童生徒の割合が低い。
- 家庭学習を十分行っている児童の割合が全国に比べて低い。
- 自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合が全国に比べて低い。



- 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と活用力の育成，学習意欲の向上
- 望ましい学習習慣・生活習慣の確立，学習環境の整備，学習規律の徹底
- コミュニケーション能力の育成

(3) 「第3期 室蘭市学力向上基本計画」から

【各学校における取組 M.A.P (室蘭アクションプロジェクト)】



上記の各学校における取組のうち本研究所においては、主に MAP③「授業改善の推進」や MAP④「学習環境の整備」、MAP⑤「現代的課題への対応」に焦点を当てて調査・研究を進めるとともに、それらの研究成果を市内各小・中学校に対して情報の還元・環流を図っていくこととした。

## 【学力向上基本計画における教育研究所の役割】

- ① 主体的・対話的で深い学びに係る研究推進
  - 研究所員による研究推進，調査研究
  - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ② ICT活用に係る研究推進
  - 研究所員による研究推進，調査研究
  - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ③ 道徳教育に係る研究推進（H30～H31/R1）
  - 道徳教育に係る研究推進，調査研究
  - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ④ 外国語教育に係る研究推進（H30～H31/R1）
  - 外国語教育のモデルカリキュラムの作成
  - 外国語教育に係る研究推進，調査研究
  - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ⑤ 今日的な課題に係る研修講座の開催
  - 各小中学校への情報の還元・環流，教職員の研修促進

上記の役割に資する研究を推進していく。研修講座や公開授業研究会については、校務の多忙化や若手教員の育成等、各学校の今日的な課題に対応した運営方法を検討した。

### 3 研究内容

令和2年度までの活動の反省を受け、令和3年度からは、「授業づくり」・「ICT活用」の2つのテーマに特化するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、また研究所の活動自体を先進実践事例とするため、所員会議や研修講座等においては、オンラインやオンデマンド等 ICT の積極的な活用を図った。また、公開授業研究会の開催を必須とせず、各グループの研究方針に合わせた柔軟な公開方法を用いることとした。

#### (1) 研究部

研究テーマ「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた指導の工夫・改善」

【授業づくりグループ】

- 研究課題



「『主体的な学び』『対話的な学び』『深い学び』が見られる  
指導工夫と指導実践」

- 構成員～副所長（市内教頭1），所員4名（小2，中2）
- 研究内容
  - ・「関心や興味を高める」「見通しをもつ」等の「主体的な学び」が見られる指導の工夫
  - ・「互いの考えを比較する」「思考を表現に置き換える」等の「対話的な学び」が見られる指導の工夫
  - ・「知識技能を活用する」「知識技能を習得する」等の「深い学び」が見られる指導の工夫

●独立行政法人教職員支援機構（NITS）が作成した「実現したい子どもの姿ピクトグラム」を活用した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の具体化と、それらを活かした授業づくりに関わる、動画クリップ研修資料の制作と公開

授業実践1：令和4年7月15日（金）第3校時

室蘭市立天神小学校 第6学年算数科「資料の調べ方」

授業者 研究所員 工藤はるか

動画クリップ「主体的な学び～振り返って次につなげる」

授業実践2：令和4年10月28日（金）第3校時

室蘭市立八丁平小学校 第5学年算数科「面積」

授業者 研究所員 木戸なつみ

動画クリップ「対話的な学び～互いの考えを比較する」

【ICT活用グループ】

○ 研究課題



「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」

○ 構成員～主任所員（指導主事1），所員5名（小3，中2）

○ 研究内容

- ・「ICT活用交流サロン」の周知
- ・「ICT活用交流サロン」の活性化（実施内容の精査や具体化）

●ICT活用に関する学習会の開催

「ICT活用グループ研修講座～ICT活用授業をステップアップさせよう！～」

令和4年12月26日（月）オンライン（Meet）にて開催

◇【説明と実演】「Kahoot!について」（体験）

◇【実習】「Kahoot!の作成や使い方」

講師 研究所員 小林 雅哉（室蘭市立地球岬小学校教諭）